

STOP!! 転倒災害

～ 厚生労働省 宮崎労働局 ～

最も多い転倒災害

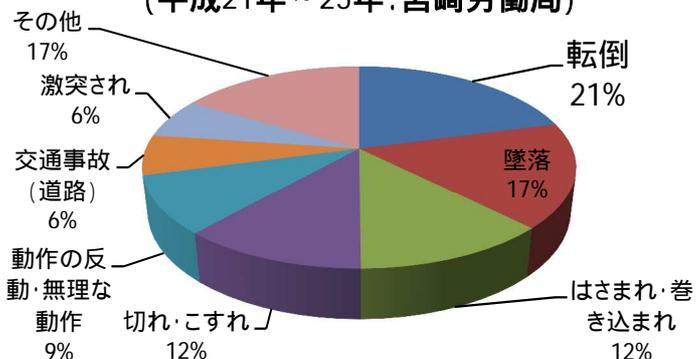
平成21年から平成25年までの間に発生した休業4日以上
の労働災害のうち、転倒災害は21%を占め、事故の型として
最も多い災害です。

重篤な災害が多い転倒災害

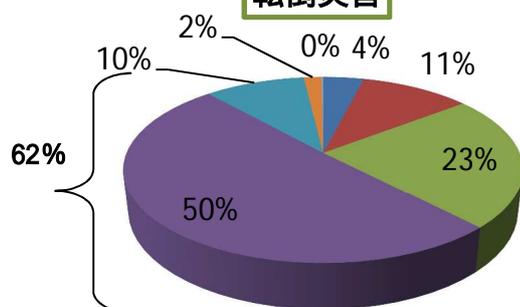
転倒による重篤な災害は、意外と多く発生しています。
平成21年から平成25年までの間に発生した休業4日以上
の労働災害のうち、休業見込み1か月以上の災害は55%で
すが、転倒災害の場合、62%を占めています。

事故の型

(平成21年～25年:宮崎労働局)

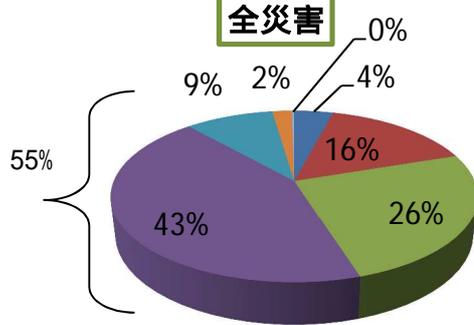


転倒災害



- 4日以上1週未満
- 1週以上2週未満
- 2週以上1月未満
- 1月以上3月未満
- 3月以上半年未満
- 半年以上1年未満
- 1年以上

全災害



業種・職種	災害の発生状況
食料品製造業	<p>厨房で揚げ物をバックに詰めるため、容器を取ろうと前方にかがんだところ、床に飛び散った油で滑ってバランスを崩し転倒した。</p>
ケガの程度	
休業10日間	
対策のポイント	
<p>作業の都度、床の油などは放置せず取り除く。 滑りにくい靴底の履き物を着用する。</p>	

業種・職種	災害の発生状況
小売業	<p>バックヤードで商品の検品中に、レジのヘルプ連絡を受けて店内に向かう途中、台車に足を引っかけてバランスを崩し捻挫した。</p>
ケガの程度	
休業1か月半	
対策のポイント	
<p>通路に物を置かない、整理・整頓をする。 作業通路を定め、定期的に職場を巡視する。 危険箇所には表示をして注意を促す。</p>	

業種・職種	災害の発生状況
飲食店	<p>空の容器を抱えた上場で従業員通路の階段を降りていたときに、足元が見えず階段を踏み外してバランスを崩し転倒した。</p>
ケガの程度	
休業2か月	
対策のポイント	
<p>運ぶ容器を小分けにするなど足元が見えるようにする。 大きな荷物を運ぶときは台車を使用する。 危険箇所には表示をして注意を促す。 階段の昇降はゆっくりを心がける。</p>	

業種・職種	災害の発生状況
自動車製造業	<p>会社の事務所から駐車場へ帰宅途中に、凍結した路面に足を滑らせ転倒し、尻もちをついた。</p>
ケガの程度	
休業1か月	
対策のポイント	
<p>敷地内の通路を除雪する、融雪剤を散布する。 雪道や凍結路面に適した滑りにくい靴を履く。 足元が見えにくい箇所は照明を設置して注意を促す。 身体を強打しないよう、クッション性のある防止・衣類を着用する。</p>	

転倒による災害を防ぐ効果のある保護具、設備対策

転倒災害を防止するには、作業に適した耐滑性能を持つ安全靴などの保護具を使うことが重要です。また、出入口周辺や屋外作業場の設備対策が必要です。

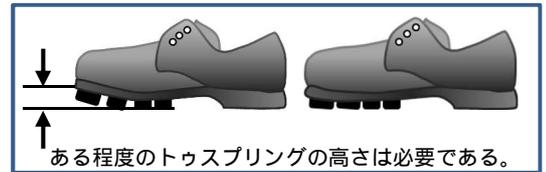
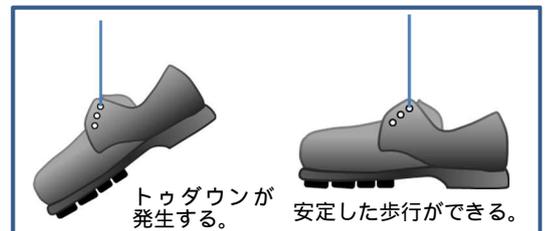
(1) 転倒防止に有効な安全靴の使用

足のサイズに合った靴を選びましょう。

サイズが小さい靴	足指が自由に動かしにくく、バランスを崩したときに足の踏ん張りが効かなくなります。
サイズが大きな靴	歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかとが、足の動きに追従できなくなります。

転倒リスクを下げる靴を選びましょう。

- a 靴の屈曲性～靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。
- b 靴の重量～靴が重いと足が上がりにくくなるため、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。
- c 靴の重量バランス～靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく(トゥダウン) 無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じやすくなります。
- d つま先部の高さ～つま先部の高さ(トゥスプリング)が低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。高齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向にあるため、よりつまずきやすくなります。
- e 靴底と床の耐滑性のバランス～滑りやすい床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑りやすさの程度に応じたものとする必要があるため、靴はできるだけ履いてみてから選定することをお勧めします。



耐滑性能に優れた靴底を持つ JIS 規格安全靴には「F」(friction=摩擦)の記述が入っており、JASS 規格プロテクティブスニーカーには、ペロ裏に耐滑性を示すピクトが入っています。

(2) 転倒防止の設備対策

床や階段を見直しましょう。

転倒は、床の状態が急に変化したような環境下で発生し易いので、出入口周辺に滑りにくいゴムマットを敷くなど、職場の床の滑り易さをできるだけ一定にする対策が有効です。

危険箇所の「見える化」で情報を共有しましょう。

職場の中で転倒災害が多発している箇所は、危険マップやステッカーの貼り付けなどにより作業員全員で情報を共有し、安全意識を高めましょう。

危険箇所の「見える化」の事例

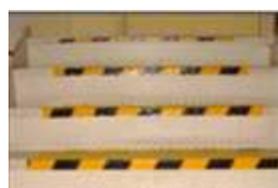


小売業における設備対策の事例

階段の下りはじめ3段と着地前3段に黄色のペンキを塗り転倒防止!!



黄色のペンキを塗り注意喚起する対策を取った



自所属で階段での転倒災害が発生し、他所属でも下る最初と最後の発生が多いとの事例から対策を考えました。(副店長)

(塗装後の職員の意見)

- ・塗装してあるので無意識のうちに注意してします。
- ・塗装箇所に近づくと急いでも自然にスピードを緩める。
- ・塗装箇所を見ると階段で転倒しそうになったことを思い出す。

STOP！転倒災害プロジェクト2015

～あせらない 急ぐ時ほど落ち着いて～

転倒災害は、どのような職場でも発生する可能性があります。職場での転倒の危険性は、働くすべての人が問題意識を持って原因を見つけ、対策をとることで減らすことができます。「転倒」という身近なテーマから職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境の実現に向けて、「STOP！転倒災害プロジェクト2015」を開始します。

【主唱者】

厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会

【プロジェクト実施期間】

平成27年1月20日から12月31日まで

（プロジェクトの効果を上げるため、積雪や凍結による転倒災害の多い2月と全国安全週間の準備月間である6月を重点取組期間とします。）

「STOP！転倒災害特設サイト」を開設します！

転倒災害の現状からその対策まで、事業場での取り組みに役立つ情報を集約してご提供します。

<厚生労働省 ホームページ>

「STOP！転倒災害プロジェクト2015」で検索

STOP！転倒

1 転倒災害防止に向けたさまざまな対策の紹介

転倒災害の防止に効果のあった事業場の取組好事例、転倒災害防止に役立つ保護具や用具などを紹介しています。



(資料出所: 中央労働災害防止協会)

2 転倒予防の知識養成セミナーの紹介

転倒を防ぐための実習を交えて基礎知識を身につけるセミナー、転倒災害防止の基本となる「4 S活動」や「KY活動」をテーマとした研修を実施します。

職場の安全、安全週間に関する情報はこちらでも発信しています！

中央労働災害防止協会 <http://www.jisha.or.jp/>

あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	身の回りの整理・整頓を行っていますか 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、 その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などに 注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
4	安全に移動できるように十分な明るさ（照度） が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
5	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい 場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6	職場巡視を行い、通路、階段などの状況を チェックしていますか	<input type="checkbox"/>
7	荷物を持ちすぎて足元が見えないことは ありませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れながら、人と話しながら、 携帯電話を使いながら歩いていませんか	<input type="checkbox"/>
9	作業靴は、滑りにくさを考えて選んでいますか	<input type="checkbox"/>
10	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を 取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。

どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！